



知夫小中学校
Tel 08514-8-2015
Fax " 8-2312
〒684-0100
知夫村 1053-1
【HP】 https://www.chibumura.ed.jp/

令和元年度を振り返って

校長 熊本直宏

先日、中学部六名、小学部三名の卒業生を送り出し、在校生に修了証を渡し、令和元年度の教育活動を終えることができました。自ら立ちゆく「知・徳・体」の調和のとれた知夫の子どもの育成をめざし、授業づくりとふるまい一番、小中一貫校の強みを生かすことを考え取組んだ一年間でした。「みんなが笑顔に！」をテーマとして掲げ、友達を思いやる言葉遣いや互いのよさを認め合うこと、どのように行動すべきか判断できる自立した子どもの姿を求めながら、来年度につながる進路指導・進路保障に力を入れました。めざす子ども像について、三学期を中心に振り返ります。

○自ら学ぶ意欲を持って、考え、調べ、表現する

一年間のまとめとして、教科学力の向上・定着をめざしました。日々の授業実践はもろろんのこと、学力パワーアップ週間やトライタイムでのミニテストの導入、放課後学習等で学力の定着に力を入れました。また、複式教育研究指定校として実践発表を行い、子ども達の進んで学ぶ姿を大変評価していただきました。また、中学部三年の生徒達は、日々の学習の努力を褒め、全員が第一志望の高校へと進路実現することができました。今後も少人数の強みを生かしながら、更なる学力向上に取組んでいきたいと思えます。

○思いやりの気持ちを持って友達を大切に

思いやりのある言葉遣いは、本校の課題であることから、二学期より家庭との連携を意識しながら取組みました。課題はあるものの、敬語や相手を考えた言葉遣い等、子ども達の意識は向上してきました。また、定期的な校内支援委員会を開催

【学校教育目標】

未来を切り拓く
心豊かでたくましい
知夫の子どもを
育成する

【めざす子ども像】

- ・自ら学ぶ子ども
- ・共に生きる子ども
- ・たくましく
生きる子ども
- ・ふるさとを
愛する子ども

することで、子ども一人一人に合わせた支援の充実をめざしました。毎月自分が頑張ったことを振り返る「がんばったカード」を掲示し、自己肯定感の高まりをめざしました。今後もいじめ等の予防と組織的な対応を大切にすると共に、保護者との連携を密にすることで、子ども達が安心して生活できる学校づくりをめざしたいと思います。

○難しいと感じることも強い心と体で挑戦し、やりきる

来たる春の活躍を意識しながら、冬季の体力づくりや部活動に取組みました。自分達で立てた目標を継続させる、そして最後までやりきることに、課題が見られます。根気強く積み重ねることで、大会等で活躍することを期待します。生活習慣では、メディアの接触時間が長い子どもがおり、気になるところです。生活チェックシートの結果を基に継続的な改善の取組みを進めたいと思えます。

○知夫のよさを体感し、よさを伝える

本校のふるさと教育の集大成である中学部二年「知夫未来子ども議会」、中学部三年「成果発表会」への挑戦も二年目となりました。地域づくりを子ども達が提案・貢献していく姿を多くの村民の皆様に見ていただきうれしく思います。また、小学部では、各地区の寄り合いに参加する等、地域と密着した活動ができました。来年もふるさと教育を本校の一つの柱としながら、身に付けるべき力を明確にし進めていきたいと思えます。



『中学部卒業式』

三月十日、中学部第七十三回卒業証書授与式を挙行いたしました。新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して行いましたが、小中学生や保護者の方に祝福される中、六名（島留学生二名）の卒業生が巣立って行きました。厳粛な中にも、卒業生、在校生の思いが感じられるとても感動的な式でした。答辞では、これまで支えてくれた家族のことや部活動での思い出、ふるさと知夫に対しての感謝、島留学生として、友達への感謝など六名それぞれが自分の思いを述べていました。式の後には、在校生からの温かいエールを受け、別れを惜しみながらもまた新しい一歩を踏み出していました。

これまで、温かくご支援・ご指導をいただいた保護者、地域、関係諸機関の皆様に変感謝しております。ありがとうございます。今後も引き続き、温かく見守ってくださいますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

〔中学部三年担任〕

～答辞より～

女子

私が中学校生活でがんばったこと、それは走ることです。私は走るのが嫌いです。いつも苦手意識から全力を出し切れずいました。最後の全隠岐陸上もキャプテンに選ばれたのにもかかわらず結局本気を出せず、悔しい気持ちが残ってしまいました。そんな私が変わったのが、駅伝でした。練習はきついし、苦しいし、毎日毎日とても嫌だったけれど、少しずつタイムが縮まってくると、自分が速くなってきているのがわかりました。これまでは駅伝を走りたいなんて思ったこともなかったけれど、初めての時は出たいと思えました。選手に選ばれた時はうれしかったです。走ることが嫌で嫌で、全力が出せず、すぐ逃げたこの私が駅伝を走るなんて。一年前の私だったら考えられません。大会本番は思うようなタイムは出せませんでした。でも、初めて自分の全力を出し切れたので後悔はありませんでした。苦手だった走ることを全力で挑戦できたことがとても私の自信になりました。高校でもこの気持ちを忘れず、がんばっていきたくです。

『小学部卒業式』

三月十九日に小学部卒業式が行われました。在校生や保護者の方に祝福される中、三名が卒業のときを迎えました。別れの言葉では、小学部六年間を振り返り、一人一人が思いを述べました。「優しさを大切にし自分で考えて行動すること」「自分のことも周りのことも考えて行動すること」「諦めずに努力すること」三人が自分の成長と中学部での決意を語りました。これまでと未来の自分について考え、熱く語る姿から中学部への意欲と期待を感じました。在校生への感謝の気持ちも伝え、広い体育館に校歌を響かせ、無事小学部を巣立っていきました。四月から始まる中学部での生活、小学部で培った力を活かしながらさらに大きく成長してほしいと思います。これまでの温かいご支援、ご指導大変感謝しております。ありがとうございます。引き続き中学部でのご支援もよろしくお願ひいたします。

〔小学部五・六年担任〕

～卒業メッセージより～

男子

努力をするのが勝つ方法。ぼくは、六年間で、このことに気が付きました。ぼくは、自分のことを「みんなみたいにすぐくない。何もできない。」と思っていました。(略)
六年生になって二回目のマラソン大会で、努力すると結果がついてくることを実感しました。目標に向かって毎日、朝マラソンを続けました。大会本番で、ライバルを超えることはできなかったけれど、新記録を出すことができました。でも、それは人に言われて積み重ねた努力で得たものでした。自分の意志で努力することはできなかったもので、うれしい気持ちよりも、モヤモヤした気持ちが大きかったです。
六年生最後のマラソン大会では、結果が悪くなつてしまいました。でも、自分で考えて練習してきた分、「自分はダメだ。」と思うことは、少なくなりました。自分の力で努力をして、結果につなげることがこれからのぼくに大切なことだと思えます。ぼくは、将来、建築士になりたいと思っています。そのためには、難しい勉強が必要です。だから、諦めずに努力できるようにするために、中学部でも朝マラソンを続けたり、宿題以外の家庭学習の時間を増やしたいと思えます。



感謝の気持ちを込めて・・・ 『三年生を送る会』

先日、知夫小中学校体育館にて、三年生を送る会が開かれました。二年生にとっては、全校を動かす初めての機会。『三年生に最高の思い出をつくってもらいたい』という思いのもと、子ども達はこの日に向けて、生徒会や授業の時間だけでなく、休日や空き時間も利用して準備を重ねてきました。本番は、中学部一・二年生一人ひとりが責任を持って動き、無事終えることができました。生徒たちには、今回やり遂げた自信を胸に、今度は自分たちが主役として各行事、日頃の学校生活でさらに活躍してほしいと思います。

〔児童生徒会担当〕



中学部二年 女子

私はプレゼント作りを担当しました。去年を超えたいと思っていたので、本気で取り組みました。休みの日も学校に来て準備をし、すごく大変だったけど、三年生が喜んでくれたみたいで良かったです。しかし、プレゼント作りの作業をもっとみんなに頼んだ方が良かったのかなと反省しています。失敗することを心配して、あまりみんなに頼ることができませんでした。だから、来年度前期の児童生徒会では、人に頼ることも大切にしていきたいです。自分の指示がしっかりとみんなに伝わるように、細かく担当の先生と打ち合わせをしたり、質問を気軽にしてもらえるようになります。聞きにくいなど思うことがないように、話しかけやすく、頼りになる先輩になりたいと、三年生を送る会を通して改めて思うことができました。

小中一貫校の強みをいかして

複式教育における「ダイヤモンド型学習」を通して、教師と子どもが共に学びを進めてきました。今年度の振り返りを、ぜひ来年度にいかしていきたいと思えます。

例年より暖かさを感じるが多かった今年度の3学期。毎日の積み重ねや1年間の成果を実感することの多いこの3学期は、1年間の学習を振り返ることが多く、特に3月は、その振り返りの質が凝縮される時期です。今回は“振り返り”をテーマにダイヤモンド型を軸とした複式での授業について振り返っていかうと思えます。

感じ、授業者（教師）と学習者（子ども）が共に学びを進めてきたことを確認することができます。

〇積み重ねを重視したダイヤモンド型の学習

ダイヤモンド型の学習を成立させたり、その質を高めたりしていくには、何と言っても毎日の積み重ねが大切です。最初はうまくいかないことばかりですが、そのうまくいかないことも積み重ねていくことで、ダイヤモンド型の学習に慣れ、よりよい学習への道が切り開かれていきます。そのうまくいかないことを一番経験するのは、1年生です。入学して何もかもはじめての1年生にとって、ダイヤモンド型の学習を進めていくことは、至難の業です。でも、複式学級には、いつも同じ教室に先輩がいます。先輩である2年生の学習の進め方を見て真似たり、困った時には2年生に助けを求めたりすることで、1年生も少しずつガイド学習ができるようになり、ダイヤモンド型の学習に対応できるようになっていきます。そして、4月からは先輩として、新1年生にお手本を示したり、助けの手を差し伸べたりすることができるようになっていくわけです。

〔研究主任〕

〇振り返りを重視したダイヤモンド型の学習

ダイヤモンド型の学習では、2学年がそれぞれにガイド学習を進めていく“同時間接指導”（校報12月号参照）に着目しがちですが、そのためには授業のはじめと終わりの“同時直接指導”が大切な役割を果たします。中でも授業の終わりの振り返りでは、今日の学習の成果（わかったこと・大事なこと等）と学び方の成果（よかった意見・意欲的な姿等）についての二本柱で振り返りをするを基本としています。今日の学習の成果を振り返ることは、次の学習への学びの連続性にいかされます。学び方の成果を振り返ることは、互いに認め合い、学び合うことの意識を高め、学習集団としての土台を固めていくことに繋がります。1年を振り返った時、これらの振り返りの質が高まってきていることを



〔写真は3月の学校生活の風景より ～ 小学部6年生や中学部3年生に「エール」や「感謝のメッセージ」を送る 〕

小学部『なわとび大会』

二月二十一日（金）になわとび大会が開催されました。約一ヶ月間、六年生が中心となり大会までの練習計画を作成し、個人競技や八の字とびの練習に取り組みました。

大会当日は、練習の成果を発揮して自己記録を伸ばしたり、班で声を掛け合って目標を達成したりする子どもの姿が多く見られました。たくさんの保護者・地域の皆様にも参加していただき、大会はとても盛り上がりました。ありがとうございました。

〔小学部体育主任〕

表彰各種コンクール

島根県書初め展

- 〔特選〕 小学部三年 男子
- 〔金賞〕 三年 女子

- 小学部三年 男子
- 三年 女子
- 四年 男子
- 四年 女子
- 五年 女子
- 中学部三年 女子
- 三年 男子

人事異動のお知らせ

この度の人事異動により、左記の者が転任・辞職することになりました。在職中は大変お世話になりました。ありがとうございました。

転校生のお知らせ

この度、知夫小中学校を転出する児童を紹介いたします。新たな学校での活躍を願っています。